

## 札幌市立円山小学校 学校経営方針

校長 野寺 克美

## はじめに

21世紀は知識基盤社会であるという認識が定着している。グローバル化や情報化等の変化が加速度的となる中で、将来の予測はますます難しい時代になってきている。現代的な課題として、わたしたちに突き付けられているのは、そんな変化の激しい時代にあって、理想の実現に向けて高い志や意欲のもと、広い視野と深い知識をもち、冷静な判断のできる人を育成することである。

社会の中で、自ら問い、解決方法を探り、問題を解決して新たな価値を創造していくことが求められる。その実現には他者に対して自分の考えを根拠をもって説明しながら、対話や議論を通して多様な考えを受け入れたり、理解したりしながら、多様な人々と協働していくことが不可欠である。もはや一人の力に頼ってはられない社会なのである。私たちは、その土台となる力をしっかりと子どもたちに身に付けてほしいと願う。

## 1 学校教育目標と経営理念

本校の学校教育目標は、開校以来「進んで考える子」「心豊かでやさしい子」「じょうぶでやりぬく子」である。これは、知、徳、体のいわゆる「三育」を、子どもが理解できるよう表現したものであり、札幌市の教育推進の柱ともつながっている。

本校には、ここ数年来掲げてきたもう一つのスローガンがある。「あふれる愛、みなぎる力、つよまる絆」である。これを学校経営理念として、今年度も引き続き大事にしていきたい。

進んで考える子

心豊かでやさしい子

じょうぶでやりぬく子



あふれる愛

みなぎる力

つよまる絆

【学校教育目標】

【学校経営理念】

## 2 学校経営の重点

経営理念 「あふれる愛 みなぎる力 つよまる絆」 をふまえて

○ 確かな学ぶ力を育む

○ 豊かな心を育む

○ 健やかな身体を育む

○ 学校・家庭・地域と連携・協働する

## (1) 重点目標の具現化

次の4つのプランから重点目標を具現化し、目指す子ども像に迫りたい。

- ① 円山「学力向上」プラン    ② 円山「愛と絆育成」プラン    ③ 円山「元気はつらつ」プラン  
④ 家庭・地域連携わくわくプラン

## ① 確かな学ぶ力を育む 円山「学力向上」プラン

「学校力」の基盤は「授業力」である。実生活で「生きる力」は、自ら課題を見付け、身に付けた知識・技能、学び方を駆使して自己判断・自己決定し、よりよく解決できる確かな「学ぶ力」「活用する力」である。

毎日の授業の積み重ねで子どもの「学び方」を育み、『確かな学ぶ力』をしっかりと育てることこそが最重要課題である。

確かな  
学ぶ力を  
育む

円山 学力向上プラン

- ① 実態把握と学力向上プランの作成
  - ・ 学力テスト等の客観的な資料の分析による実態把握と考察
  - ・ 学級として、学校全体として「確かな学力」を向上させる短期・中長期の目標と具体的な手立てを設定した「学力向上プラン」の考察
- ② 「確かな教材観」による授業の構想と実践
  - ・ 系統性をしっかりとおさえた「子どもに身につけさせる力」の明確化
  - ・ 仲間と共に問題解決に向かう授業の展開
  - ・ 「わかる」「できる」「楽しい」授業の展開
- ③ 切磋琢磨する授業研究と授業改善の充実
  - ・ 互いの指導方法を学び合い、指導の幅を広げる。
  - ・ 授業改善につながる研修活動の充実
- ④ 専科指導の実施
  - ・ 理科、英語活動を中心とした専科指導を取り入れる。
- ⑤ 学びの効果を高めるT・Tやサポーターの充実
  - ・ 学習ボランティア、学びのサポーターの活用
  - ・ 保護者や地域の達人を発掘し、「本物」の経験や学習の充実を図る。
- ⑥ 英語活動の指導法研修の推進（英語活動実践研究会等を通して）
- ⑦ 読書意欲の向上を図る「朝の読書」の充実→知性を磨く読書へ
- ⑧ 家庭学習への主体的な取組
  - ・ 本校が進める家庭学習の取組の意図を保護者と共有し、協力を得る。
  - ・ 発達段階に応じた自主的な学び（家庭学習）の在り方やアイデアをみんなまで共有する。（小学校6年間で育てる）

<重点課題> ☆ **子どもの知性を磨こう。**  
☆ **指導法を学び合い、子どもに楽しくわかる授業を提供しよう。**

## ② 豊かな心を育む 円山「愛と絆育成」プラン

どの子ども学級で自分の存在感を感じ、毎日の生活を楽しく過ごす中で子ども自身が「幸せを感じる学校」でありたい。

そのために教師が信頼されるかわりを持ち、『あったか心』の子どもたちをどんどん増やしたい。

豊かな心  
を育む

円山 愛と絆育成プラン

- ① あいさつ「100パーセント」、いじめ「0」の学校生活
- ② 子どもに寄り添う深い児童理解とそれに基づく学級・学年経営
- ③ 道徳の教科化に向けた準備
- ④ 基本的な生活態度や規則を守る態度を育てる学級活動の推進
- ⑤ あこがれを生み、思いやりの心を育てる「ななかまど活動」や幼・保・小・中の連携
- ⑥ 共に育つ心を育む特別支援教育、福祉教育

- ⑦ 児童の活動の様子や努力の成果が伝わる「学校行事」「児童集会」
- ⑧ 本物体験の重視

<重点課題> ☆ **子どもの感性を磨こう**  
 ☆ **ななかまど活動の重要性を共有しよう**

### ③ 健やかな身体を育む 円山「元気はつらつ」プラン

学校は家庭の教育力の向上を図るサポートが必要であり、「学校ができること」と「家庭がすべきこと」を明確に共通理解したい。

休み時間に元気いっぱい遊ぶ子ども、縄跳び等の目標に向かって運動する子どもを育てる。また、家庭での基本的な生活習慣や食育・食指導等の協力を呼びかけるための具体的方策が必要であり、家庭と連携して規範意識を向上させることも必要である。

不審者による事件や事故等から子どもを守るためには、子ども自身が自分の身体・命を守るという意識とともに、保護者・地域と連携して安全・安心な学校づくりを推進したり、危機管理意識を高めたりしていく必要がある。また、校内でのけがを防ぐ意識を子どもたち自身にもたせる必要もある。

健やかな  
身体を  
育む

- ① 基本的な生活習慣の定着と意識の向上
- ② 実態把握と健やかな身体育成プランの作成～健康教育の推進
  - ・ 運動の日常化と体育授業の充実
  - ・ 子どもの目標や目的意識を高める運動の充実（なわとびの継続）
- ③ けがの防止に対する意識の醸成
- ④ 食育指導計画の充実と家庭への啓発
- ⑤ アレルギー対応等の万全な体制づくり
- ⑥ 防犯対策の研修や安全システムの充実
- ⑦ 保護者・地域との連携による安心・安全な地域づくり

円山 元気はつらつプラン

<重点課題> ☆ **子どもたちのチャレンジ意欲を引き出そう。**  
 ☆ **安心・安全な学校にしよう。**

### ④ 学校・家庭・地域と連携・協働する 「家庭・地域連携わくわく」プラン

学校・家庭・地域の三者が連携・協働した教育活動の推進に努めたい。

また、保護者、地域の願い・要望の集約の工夫と情報の積極的活用を図りたい。

学校・家庭・  
地域と連携  
・協働する

- ① 主張点や重点が明確にわかる「学校教育説明会」の充実
- ② 魅力ある参観・懇談の工夫
- ③ 「伝える・見える・感じさせる」学校・学年・学級からの通信の工夫
- ④ 子どもの活動の姿を公開する場の充実と啓発（年間プランの発信）
- ⑤ ホームページの活用と充実（わかる・見える・感じるを目指して）
- ⑥ 地域の「もの」「ひと」「こと」の活用
- ⑦ 幼稚園や保育園、中学校との連携
- ⑧ 学校評価の有効活用（PDCAの実践）

円山 家庭・地域連携

わくわくプラン

<重点課題> ☆ **教育活動を具体的に発信しよう。**  
 ☆ **保護者・地域との信頼関係を積み重ねよう。**

## (2) 具現化の方策

- ① 教育課程の編成・実施・評価・改善に努める（学校評価システムの充実）
  - 教育の今日的課題を把握するとともに、学習指導要領の内容に照らし、重点目標の具現化に向けて教育課程を編成・実施し、子どもの育ちをもとにその評価・改善に努める。
  - 子どもの実態を的確に捉え、目標、指導内容、指導方法、指導時数等の調和の取れた運用を図る。
  - 教科や総合的な学習に地域の特質を生かした教育課程の編成を行う。
  - 現在行っている教育活動の価値付けあるいは相互の関連を明確にし、教育課程の改善につなげる。
  
- ② 楽しさ・温かさ・厳しさのある学年・学級経営に努める。
  - 学年で共通理解にたった教育活動を展開する。低・中・高のブロックや、近接学年と連携を図りながら、それぞれの教師の持ち味を発揮し、情報を共有しながら、子どもの変容を促す指導力の向上に努める。
  - 学年の担任が一つのチームとなり、担任外教諭とも連携し、児童理解と効果的な指導に努める。
  - 望ましい集団活動を通して、集団の一員としての自覚を深め、協力してより良い生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。
  
- ③ 教職員の専門性を高める研修・研究活動の推進に努める。
  - 一人一人の英知を出し合い、切磋琢磨したり、持ち味を発揮したりしながら、さらに磨き合う研修・研究活動に取り組む。
  - 「習得」・「活用」・「探究」を意識し、「思考力・判断力・表現力」を鍛え、自分や他者との対話やかかわりを通して学ぶことの楽しさを実感できる授業の研究を深める。
  - 市教育委員会の研修講座や他校の研究会に学ぶことはもとより、校内において教師力・授業力を学び合う場をもつ。
  
- ④ 校務分掌組織の連携の強化と教育活動の焦点化、重点化を推進する。
  - 諸会議の効率的、効果的な運営に努める。（提案尊重の姿勢）
  - 組織間の連携を密にして、建設的・創造的な提案を前向きに受けとめ、全職員の共通理解を図りながら学校運営に主体的に取り組んでいく。
  - 短期的に即対応して改善していく課題と中・長期的に検討して改善していく課題を明確にし、各教育活動の関連を強めるようにする。
  
- ⑤ 事務的作業の効率を図り、精神的ゆとりを生む。
  - 校務の効率化を図るための「校務支援システム」の機能を生かす。また、通知表のデジタル化の活用性を高める。保護者の理解を得る「教育相談」の資料に生かす。
  - 習熟を図るためや家庭学習のためのドリル等は市教委の「教育コンテンツ」を利用する。
  - 事務の効率化と事故を防ぐために、学校徴収金は可能な限り現金をもたせない方法の模索を図る。
  - 業務や会議の効率化を図る方法を模索していく。
    - ・ 学年の活動記録や分掌の提案資料の共有化を図る。
    - ・ 時間を守る姿勢の共有。（一斉下校等）

⑥ 安全・安心な学校づくりを進める。

- 教職員も子どもも危機管理意識をもって日常の安全に関心を配り、安全点検の体制を確立して安全指導の徹底を図る。校内のけがの実態把握と傾向分析を、安全指導に活かす。
- 安全管理マニュアルの見直しを図り、実効性と共通理解・共通実践を進める。
- 不審者対策の具体化（日常の玄関施錠の徹底）と不審者入校時の対応の研修・実践力の向上
- **個人情報**の点検・管理を徹底する。（個人情報マニュアルの再確認を図る）
- 保護者、地域と連携して校内外の防犯体制の充実を図り、児童にも防犯意識と実践化を図る。
- 「お迎え集団下校訓練」の充実を含め、災害等に対応できる集団下校の判断力を高める。

⑦ 継続3か年の校内研究の取組を通して、個々の授業力と学校力を高める

- 研究は自分たちの授業力を高める手段であり、互いに発信し、素直に批評を認めることが学校力を高め子どもに還元していく。
- **児童理解、学級づくりを含めた研修**を取り入れる。

⑧ 笑顔いっぱいの職場づくりを進める

- 学校に来るすべての人に笑顔で応える。（来客者に笑顔で一言を）
- 電話の対応は「はい、円山小学校の〇〇…」から。（名前を告げることから）

⑨ **Team 円山**の学校全サポート体制を確立する。

- 低・中・高学年・ハートフルのブロックごとに、学習面・生活指導面・危機対応面でのサポートを下記の窓口を通して相談したりアドバイスを受けたりする。全体を教頭先生が集約する。  
**各ブロックのサポート(相談窓口) 低学年:松尾 中学年:林 高学年:及川 ハートフル:小田島**